

実施主体、事業名などの概要

- ・事業名：海と共生するまち・大槌～環境再生型観光モデルの創出～
- ・実施主体：NPO法人おおつちのあそび
- ・対象とする良好な環境：令和の里海事業R6採択地域

・対象地域：岩手県大槌町

地域の現状・課題

- 三陸沿岸に位置し、二次交通の便が悪い、知名度が低い
- 特徴的なプログラムを繋ぐストーリーの構築やコンテンツ整理ができていない、プロモーション戦略の不足。
- 藻場保全活動の周知と継続

目指すべき姿（中長期ビジョン）

- インバウンドや国内都市部から集客できる、良質で独自性の高いリジェネラティブな観光プログラムを確立
- 観光客も単なる訪問者ではなく、大槌の自然を守る主体者として継続的に関われる仕組みを整える

実施項目（事業内での取組）

- コンテンツのブラッシュアップ
- プロモーション戦略の構築
- 継続的なPDCAとブランド構築
- 観光活動による環境への影響・貢献の評価

R7：コンセプト・ストーリー策定

R8：プロモーション

R9：保全と活用の融合
（事業期間終了後）

実施項目（事業内での取組）

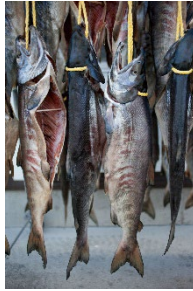
- 既存の観光コンテンツ整理
- 市場調査・ターゲットの分析
- コンセプト策定・仮説検証
- 自然共生サイトを活用したワールドブランディング

実施項目（自走化）

- 観光客が主体的に保全の活動者となる観光地として自走
- MICE、個人旅行両方のインバウンド誘致・受入

対象となる良好な環境の概要

岩手県大槌町



- ✓ 世界三大漁場と豊富な藻場により、鮭、ウニ、アワビ等の水産物が豊富だった
- ✓ それらの水産物の江戸との交易により、**虎舞等の伝統芸能が形成**される
- ✓ 近年磯焼けにより、磯根資源の漁獲量減少、**行政・漁業者、ダイバーで一体となった藻場再生活動**を展開
- ✓ リアス地形により山と海の循環も感じやすい、林業やジビエ事業などの**森林保全の取り組みも盛ん**
- ✓ 定期的に大きな**津波被害に遭う地域**、災害という側面での海についても知れる

良好な環境に係るストーリー

めぐり
大槌町のコンセプト：【海と山と人の環】

英語コンセプト考案中

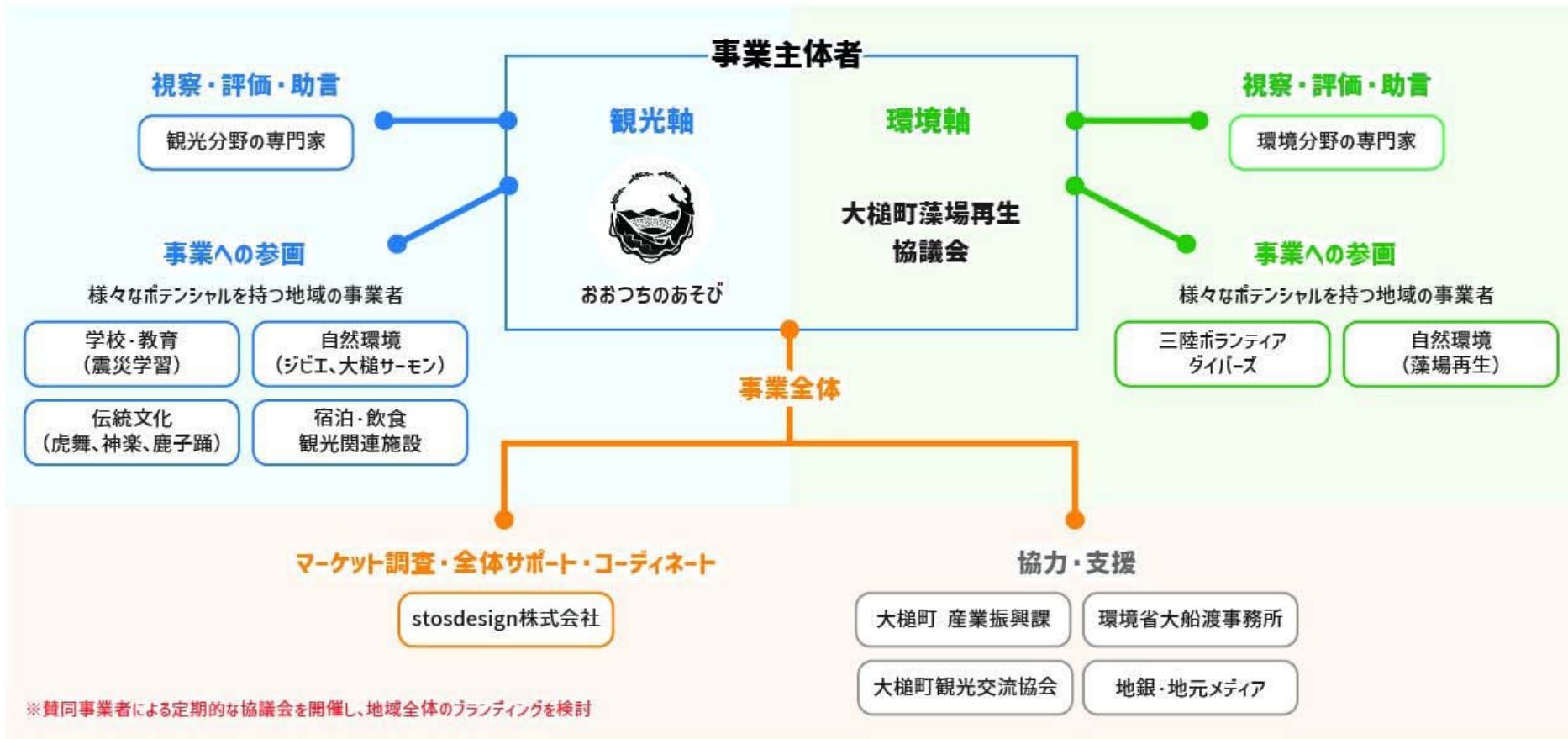
『**あなたは何をめぐらせる？○○○になれる大槌**』

つなぎ手？結び目？守り手？
HERO? Guardian? Regenerator? Bridge?



大槌町では、古くから人と海は支え合い、また海と山も支え合い、共に支え合い循環して生きてきた。一方的に搾取するのではなく、共に支え合う仲間として、藻場再生や森林保全に取り組んでいる。観光客もこの循環を回す一員として活動し、循環・共生の一部となれる。

実施体制（図示）



受託者であるNPO法人おおつちのあそびが主体となって、地域の体験観光事業者と密に連携・協議を行い事業を実施している。マーケット調査やデザイン、事業サポートには、他地域で同様の観光ブランディング事業を多く手がけてきたstosdesign株式会社にサポートしていただいている。また、大槌町役場産業振興課、大槌町観光交流協会とも情報共有、連携を図り、事業を進めている。

【R7年度取組】

既存の観光コンテンツ整理【済】

- 町内体験観光事業者にヒアリング、協議を実施し、既存のコンテンツをテーマ別に分類
- 整理した既存のコンテンツの強みや課題について専門家による評価を行った

市場調査・ターゲットの分析【実施中】

- 他地域や海外における環境保全活動の観光化について情報収集、検索されているワードについて調査
- 外国人向けの体験プログラムに対するアンケートを実施
- 他地域の事例を視察予定

コンセプト策定・仮説検証【実施中】

- 整理・評価結果とターゲットの分析を元に仮ストーリー策定し、モニターツアーを実施
- 評価や調査、分析した材料から、コンセプト・ターゲット・ストーリーを策定中
- 大槌循環図(仮称)の完成

自然共生サイトを活用したフィールドブランディング【実施中】

- 企業と共に自然共生サイトに係る保全と観光を融合した活動を実施
- 上記活動を自然共生サイト申請へ繋げ、観光地域としてネイチャーポジティブなブランドイメージを構築する

特に工夫した点・取組成果

- 各種体験プログラムの団体受入やインバウンド対応の可否等整理、旅行者のニーズや課題について把握した
- 上記をコンセプト、ターゲット策定の材料とし検討を進めている

特に工夫した点・取組成果

- 欧米や豪では、環境保全の有償ボランティアが盛ん
- アンケートの調査結果より、**アジア圏は自然アクティビティやグルメに関心、欧豪では環境保全や文化体験に高い関心がある**ことがわかった

特に工夫した点・取組成果

- モニターツアーの結果より、**観光客に役割のあるプログラムが高い達成感を得られること**、体験プログラムの満足度は高いが、ターゲットに応じて食事や宿泊を検討する必要があることがわかった

今後のスケジュール

- 自然共生サイトに関心のある企業・教育機関と連携中（8月1回、12月3回活動予定）
- 生物多様性増進計画策定中、自然共生サイト申請へ繋げる
- 上記保全活動による成果モニタリングを2月ごろ予定

R7年度のゴール

- 観光客を保全活動の主役にする観光コンセプト策定、ターゲットに応じたコンセプトの展開
- 地域一体となった自然資源を活用した観光への機運醸成（協議会設立等を検討）

課題

- 特徴的かつストーリー性の高いパッケージを取り扱う旅行会社、ランドオペレーター等との人脈、関係性が少ないため、素晴らしい観光プログラムが構築できても販売ルートを見出せていない
- 英語の通訳は何名かいるが、中国語のできる通訳人材が乏しい（広域連携で解決できそう）

対象

合計79名、アジア圏から40名、ヨーロッパから12名、アメリカから12名、オーストラリアから5名、その他の国から10名の回答を集めた。24歳以下から65歳以上までの幅広い層からバランスよく回答が得られた。

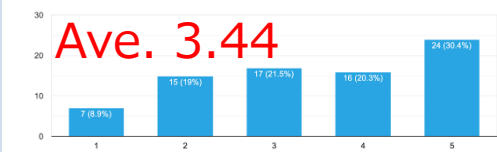
総合的な傾向

- 若年層・アジア圏
- アクティブ体験（狩猟・キャンプ・サバイバル）に強い関心
- 中高年層・日本在住者
- 文化・歴史・学び系（伝統芸能・サケの歴史・災害学習）に関心
- 欧米圏
- 環境保全や自然体験（藻場再生・アウトドア）への意識が高い

大槌の体験プログラムへの興味の程度とその理由（5点満点）

藻場再生プログラム

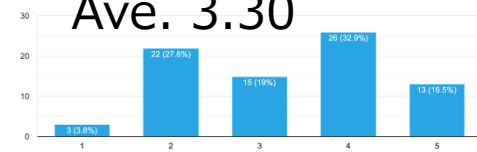
Q16_1 【Marine Restoration Program: Reviving Underwater Seaweed Forests】
79 件の回答



- ・自然を楽しみつつ保全に貢献が魅力
- ・サステナビリティ、地域への貢献
- ・海の自然を体感できるのは珍しい
- ・日本の海でダイビングしてみたい

サーモンツーリズム

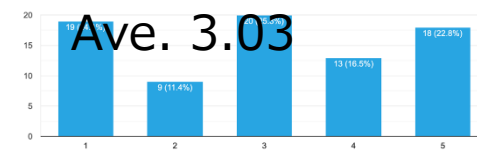
Q16_5 【The History of Salmon and the town】
79 件の回答



- ・町の歴史とグルメに興味がある
- ・サーモン食べるのが好き、親しみやすい
- ・釣りの体験に興味がある
- ・家族で学びながら楽しめそう

ジビエツーリズム

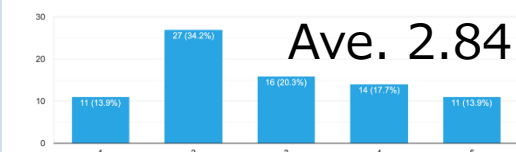
Q16_4 【Leaning the balance between humans and nature (Hunting & Processing the Animal)】
79 件の回答



- ・珍しい体験、マタギ文化に興味がある
- ・自国ではできない体験だから
- ・狩猟、解体には少し抵抗がある

震災フィールドワーク

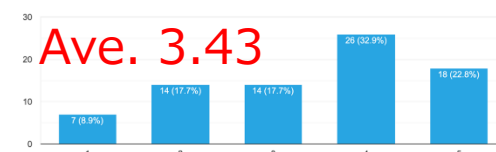
Q16_2 【Disaster Learning Program: Reflect, Learn, and Grow】
79 件の回答



- ・日本は災害に強い国、そこから学びたい
- ・災害リスクの軽減について学びたい

郷土芸能の舞

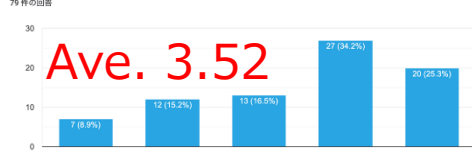
Q16_6 【Traditional Performing Arts Under Firelight at a local shrine.
79 件の回答



- ・ここでしか見られないから
- ・独自性を体現している伝統芸能を見たい
- ・この土地の文化や芸能について学びたい

吉里吉里国

Q16_3 【Connecting with Nature: A hands-on survival experience (Firewood Chopping + Fire Starting & Emergency Meal Cooking)】
79 件の回答



- ・防災にも繋がる生きる力を身につけたい
- ・現代生活から離れて自然を満喫したい
- ・能動的な体験、スキルを身につけられる

テーマ：海と共生、リジェネラティブツーリズム

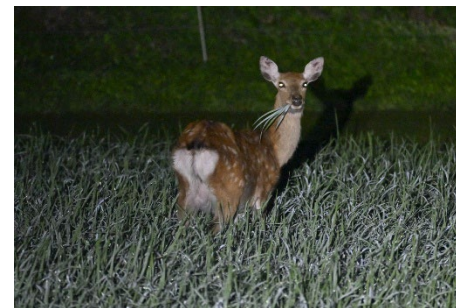
1日目：大槌町の震災・津波の歴史と、鮭・水産の歴史、海運により運ばれた郷土芸能に触れ、大槌町の人々がこれまでどのように海と関わってきたのかを知る。

内容：町内震災フィールドワーク、鮭とサーモンFW、郷土芸能かがり火の舞



2日目：現在の海の環境・状況を知り、自分たちが海にできることを実践する

内容：薪割りとサバイバル食づくり、藻場再生ダイビング、ナイトサファリ



参加者アンケート結果からのツアー全体の考察

- ツアー全体の評価は概ね高い、「地域の人々と一緒に過ごし、学ぶ」ことが体験の価値を高めている
- 食事や宿泊、大槌町までの移動などに改善、課題を求める声の一部ある

藻場再生体験に対するコメント

- ダイビングに挑戦するだけでなく、藻場再生活動と組み合わせることで価値が高まった
- 海中の様子など、もっと長くじっくり体験したかった、荒廃した海中を見て活動することで、達成感が高まった

アンケート、専門家評価、モニターツアー、環境省現地視察等から視えた点

- 震災プログラムへの期待値、興味は高くない、体験後満足度は高い
- 自然・文化・グルメ、保全活動、アクティビティへの期待値、関心が高い
- 国・年齢により、興味のあるアクティビティの内容・強度は異なる
- 環境保全、地域への貢献等、観光客が何かしらの役割を持ち貢献する活動の満足度は高い
- 地域の人々のストーリー（人生）への興味関心は高い、人に出会う旅は満足度が高い
- 大槌の文化芸能・海・山・人・災害の循環図、統一したテーマで語る

現在協議中のコンセプト・ストーリー

- 期待・興味関心の高かった、「藻場再生」「吉里吉里国」「郷土芸能」を入り口に、観光客に役割を与え、環境・文化保全の一員となってもらい、名称考え中
- 最後に震災フィールドワークで、地域と人の繋がりを再考、独自性の高いストーリーに

現在想定している市場とターゲット

1. AT・環境保全志向の欧米豪個人旅行、20~40代、カップル、ソロ
→Three goats, Oku Japan等のランオペへの営業、OTA（Viator, Klook）への掲載
2. 環境保全・リーダーシップ養成 教育機関、企業研修
→ランオペ、旅行会社への営業、環境保全系イベントでの発信、周辺事業者との連携

本事業を通して実現する「保全と活用の好循環」の仕組み

保全の具体的内容・方法

- 大槌町藻場再生活動による、磯焼け対策、ブルーカーボンの創出、生物多様性増大への貢献
 1. 食害生物の密度管理
 2. 各種海藻類の増養殖
 3. 活動成果・現況の調査・モニタリング
- 企業のCSR活動・教育機関による藻場再生活動
- 鳥獣保護管理や間伐・林業による森林生態系保全

活用の具体的内容・方法

- 『〇〇〇（考案中コンセプト・ターゲット）』として循環を一緒に回したい、インバウンドも含む個人、企業・教育機関への体験プログラムの提供
- ブルーカーボンの創出・売買や、自然共生サイト登録による企業CSR活動との連携
- 海洋と森林の循環・保全をテーマにした体験プログラムの造成・提供と関係交流人口の増大

活用から保全への還元方法

- 保全活動を「〇〇〇」としてブランディングし、インバウンド向け個人旅行観光プログラムや、企業・教育機関向けの研修プログラムとして保全活動を共に実践し、金銭的な還元と、人間的な還元を図る。
- 実際に体験・観光に来るだけでなく、ブルーカーボン売買や、保全の一助となる地場産品（ウニ、アワビ、薪、ジビエ）のオンラインショップでの購入、オンラインでの藻場再生・保全活動（オンラインコンブオーナー等）の支援体制等も整えていきたい（HPが構築できたのち、R8に実施検討）

【R8年度取組】

コンテンツの ブラッシュアップ

- ストーリー、コンセプト・ターゲットに応じたコンテンツ内容のブラッシュアップ
- 一貫したストーリーで繋いだモデルコースの作成
- タリフの作成と販売体制の構築

プロモーション戦略の構築

- インフルエンサーも活用したSNS戦略の強化と広告発信
- FAMトリップの実施と参加者の意見をヒアリング、商品内容を確認
- 多言語化ツールの整備とHPの情報発信の強化

受入体制とブランド構築

- ガイドの育成とインバウンド向けスルーガイドの配置
- 近隣地域とのパートナーシップの強化とストーリーの確立によるブランドの確立
- 販路の最適化、OTA旅行会社との連携各種商談会への出展

観光活動による環境への 影響・貢献の評価

- 観光活動や企業のCSR活動、教育活動による生物多様性や藻場面積の増減を定期的にモニタリングする。

想定する成果

- R7に策定したコンセプトと合致し、どのプログラムに参加しても共通の「キーワード」に出会えるプログラム
- コンセプトに合致したモデルコースとタリフ

想定する成果

- SNSからの観光客の流入、認知向上
- ニーズに合った小規模～中規模団体旅行の体験プログラムの完成
- それぞれのプログラムの多言語対応、体験HPの完成

想定する成果

- 周辺地域と一体となった広域での観光ブランディング
- 二次交通の便の悪さに左右されない、ストーリー性を重視し広域を扱うランオペや旅行会社への販路開拓と連携

想定する成果

- 上記活動による環境保全への貢献を可視化する
- 保全と活用の好循環について定量的に評価することができる

R8年度のゴール

- 保全と観光を融合した体験観光ができる町としてのブランディング・販売経路確保
- 観光活動による環境への貢献の可視化

想定される課題

- 販売経路（旅行会社、ランドオペレーター）とのマッチング